

平成 10 年人口動態統計月報年計（概数）の概況

～合計特殊出生率は 1.38 に～

結果の要約

1 出生数は増加

出生数は 120 万 3,149 人で、前年の 119 万 1,665 人より 1 万 1,484 人増加し、出生率（人口千対）は 9.6 で前年の 9.5 を上回った。

合計特殊出生率は 1.38 で前年の 1.39 を下回った。合計特殊出生率が低いのは東京都、千葉県、北海道、京都府等の大都市を含む地域であった。

2 死亡数は増加

死亡数は 93 万 6,480 人で、前年の 91 万 3,402 人より 2 万 3,078 人増加し、死亡率（人口千対）は 7.5 で前年の 7.3 を上回った。

死因別にみると、死因順位の第 1 位は昭和 56 年以降、悪性新生物であるが、第 2 位に心疾患、第 3 位は脳血管疾患となっている。全死亡者に占める割合はそれぞれ、30.3%、15.3%、14.7%であり、死亡者のおよそ 3 人に 1 人は悪性新生物で死亡したことになる。

3 自然増加数は減少

出生と死亡の差である自然増加数は 26 万 6,669 人で、前年の 27 万 8,263 人より 1 万 1,594 人減少し、自然増加率（人口千対）は 2.1 で、前年の 2.2 を下回った。死亡数が出生数を上回った都道府県は、

高知県（平成 2 年以降）、島根県（平成 4 年以降）、秋田県（平成 5 年以降）、徳島県（平成 6 年以降）、山口県（平成 4・5・7 年以降）、鹿児島県（平成 7・9 年以降）、山形県（平成 9 年以降）、和歌山県（平成 5・7・10 年）、愛媛県（平成 10 年）の 9 県である。

4 死産数は減少

死産数は 3 万 8,990 胎で、前年の 3 万 9,546 胎より 556 胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は 31.4 で、前年の 32.1 を下回った。

5 婚姻件数は増加

婚姻件数は 78 万 4,580 組で、前年の 77 万 5,651 組より 8,929 組増加し、婚姻率（人口千対）は 6.3 で前年の 6.2 を上回った。

平均初婚年齢は夫 28.6 歳、妻 26.7 歳で、夫は昭和 62 年以降横ばいに推移しているが、妻は平成 4 年以降毎年上昇している。

6 離婚件数は増加

離婚件数は 24 万 3,102 組で、前年の 22 万 2,635 組より 2 万 467 組増加し、離婚率（人口千対）は 1.94 で前年の 1.78 を上回り、件数・率ともに人口動態統計史上最高となった。

人口動態総覧

	実 数			率		平均発生間隔	
	平成 10 年	平成 9 年	対前年増減	平成 10 年	平成 9 年	平成 10 年	平成 9 年
出 生	1 203 149	1 191 665	11 484	9.6	9.5	分 秒 26"	分 秒 26"
死 亡	936 480	913 402	23 078	7.5	7.3	34"	35"
乳児死亡	4 380	4 403	-23	3.6	3.7	120' 00"	119' 22"
新生児死亡	2 353	2 307	46	2.0	1.9	223' 22"	227' 50"
自然増加	266 669	278 263	-11 594	2.1	2.2	…	…
死 産	38 990	39 546	-556	31.4	32.1	13' 29"	13' 17"
自然死産	16 919	17 453	-534	13.6	14.2	31' 04"	30' 07"
人工死産	22 071	22 093	-22	17.8	17.9	23' 49"	23' 47"
周産期死亡	7 461	7 624	-163	6.2	6.4	70' 27"	68' 56"
妊娠満 22 週以後の死産	5 818	6 009	-191	4.8	5.0	90' 20"	87' 28"
早期新生児死亡	1 643	1 615	28	1.4	1.4	319' 54"	325' 27"
婚 姻	784 580	775 651	8 929	6.3	6.2	40"	41"
離 婚	243 102	222 635	20 467	1.94	1.78	2' 10"	2' 22"
				平成 10 年	平成 9 年		
				合計特殊出生率	1.38	1.39	

注：出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率・妊娠満 22 週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対である。

資料：厚生省大臣官房統計情報部